

平成 30 年 4 月 14 日

川田実行委員長挨拶

皆さん、こんにちは。只今ご紹介頂きました川田です。本日は西村我尼吾先生とのご好誼ご縁でこの場に立っております。本日第 5 回芝不器男俳句新人賞の公開選考会を開催するに際しまして、実行委員会を代表して一言ご挨拶をさせていただきます。

この芝不器男の名前は「君子は器ならず」という言葉に由来します。その意味は紳士というものは一つの芸だけではなく様々な能力を持つ人であるという意味です。孔子の言葉であります。今日この場にお集まりの皆様、審査委員の方々は俳人であると同時に様々な能力をもって活動されている方々であり、まさにこの名にふさわしい方々が今日ここに集まっています。素晴らしいことです。

さて、会を進めるにあたり、まず本日の会場のご提供を始め大変な御支援をいただきました荒川区〈現代俳句センター〉に御礼を申し上げます。その他御後援団体、協賛企業の方々にも御礼を申し上げます。またこの賞のために世界的なガラス作家であるノグチミエコさんが素晴らしい作品を贈呈していただいたことにも感謝いたします。皆さん、どうぞここに飾ってある作品を後程鑑賞していただければ幸いです。

芝不器男俳句新人賞は、この種の新人賞の魁を成すものとして、夭折の俳人芝不器男の名を冠し、2002年に第1回が行われました。その後4年ごとに開催され5回目を迎えます。本賞は40歳以下の若い俳人を対象に、新鮮な感覚を備え、大きな将来性を有する、何よりも21世紀の俳句をリードする新たな感性が登場することを強く願って実施するものであります。そして、第一回から第4回までの本賞はじめ審査委員奨励賞受賞の方々が、俳壇において目覚ましく活躍されていることが、私たち主催者としてたいへん嬉しく思う次第でございます。

今回は140編もの応募がありました。四年間の近作で100句をまとめるということは大変なことでございます。

聞くところによると予選を通過するかどうかは、まさに紙一重のところと伺っております。

100句の中で1句をおろそかにしないことがこの紙一重の差を超えることであろうとのことであります。今回予選を通過された34名の方はどなたが芝賞に輝いてもおかしくない方々であると思っております。また、惜しくも今回予選を通過されなかった100名を超える応募者の方々の作品にも明日を切り開く多くの名作があったと、事務局から報告を受けております。その方々にも特別賞の機会を設けてあります。

この芝不器男俳句新人賞は今日の選考会で終わりではございません。単に受賞者を選ぶことに意義があるわけではなく、この賞をきっかけとして現代俳句の明日の俳句を切り開いていくことに貢献することに大きな意義があると私たちは考えております。

若い俳人の明日の俳句へのスタートの場として、実行委員会事務局においては、受賞者の作品を含め、全予選通過者、そして何より予選を通過されなかった作家の一句一句の重みをもって、現代俳句への意義など、可能な限り議論が深められるような努力をして、次の芝賞につなげていってほしいと願っております。

表彰式は再び、この現代句センターのある「ゆいの森あらかわ」で6月16日に行われます。その時には受賞者によるシンポジウムも行われる予定であると伺っております。その時は、芝賞に参加されたすべてのかたが、議論に参加して新たなプラットフォームが形成されてゆくことにつながれば、意義のあることであると思えます。

これから行われる選考委員の先生方の熱い議論を期待して、簡単ですが私からのご挨拶とさせていただきます。

平成30年4月14日

第5回芝不器男俳句新人賞実行委員長

公立大学法人首都大学東京理事長、産業技術大学院大学学長 川田誠一